

第2部 Community Collab. Session

「まちの“つながり”をデザインしよう～コミュニティ×コミュニティから生まれる、ちよだのミライ」対話テーマ

【分野を超えて話し合いたい地域課題】

A : 2040年問題(高齢化、若手人材不足、インフラ老朽化)に備えるには?

団塊ジュニア世代が65歳となる2040年、人口の3分の1が高齢者となり、少子化、人口減少や労働力不足による経済の弱体化や社会インフラの老朽化対応などにより、社会保障の増大や財政負担の深刻化も進むと言われています。現状の経済社会の構造のままでは、日本はもたないでしょう。これからの千代田区で起きる問題は? どのような新しい社会システムを千代田から発信できたらいいのでしょうか?

B : 世代間ギャップが広がる中で、世代間交流を進めるには?

時代の変化も早く、価値観も多様化する中で、地域の人の交流やつながりが難しくなっています。多世代交流の大切さも指摘されながらも、子育て世代とその親世代の考え方の違い、ITの使い方の違い、同じ高齢者でも、戦中戦前派と団塊世代以降では生活スタイルが違うといった難しさもあります。これらを乗り越え、それぞれがいきいきと暮らせ、助け合いもできる世代間のつながりを、どう実現したらいいのでしょうか?

C : マンション生活のリスクに備え、安心・充実の増やすには?

マンション暮らしは、プライバシーが守られ、セキュリティも高いものです。それらは便利さや安心という生活の利点である一方で、災害時の緊急対応や、急病・要介護・認知症となった時の孤立などのリスクにもなりうるものです。マンション暮らしにおいて、非常時や、自身や家族の健康状況が悪化した時に起きうる潜在的なリスクは何でしょう? それを防ぐには、どのような日頃の取り組みが大切でしょうか?

D : 町会など地域コミュニティの未来は?

千代田区の町会は歴史ある地縁コミュニティであり、今も地域を支えています。これまでの町会は、町で生まれ育った人や商売をする人を中心に運営されてきました。しかし、千代田区では都心開発で古くから住む人の人口が減った後に、マンション増加によって人口が増えたこともあり、町会のあり方を考える時がきています。千代田区にとって町会はどのような意味があり、これからの町会はどうなるといいのでしょうか?

E : 千代田の魅力や可能性をより多くの人に伝えるには?

千代田区は、歴史的な資産、新しい都心スポット、皇居を始めとした自然があり、魅力的な人がいて、活動やイベントなども豊富な地域です。既に多彩な活動もある地域ですが、まだまだ眠っている魅力や可能性はたくさんありそうです。千代田区には、どのような魅力や可能性があるのでしょうか? その魅力や可能性を伝えたり、新しい価値を生み出したりするには、どのような活動や場があるといいのでしょうか?

【活動を進め、コミュニティを広げる課題】

F : 活動の仲間やコミュニティ参加者を増やすには?

コミュニティ活動の共通の課題として、参加者や仲間をどう増やすかということがあります。また、イベントの参加者が増えても、継続的なつながりをつくり、運営側の仲間になってもらうのは難しいという課題もあります。自分の活動を知ってもらうには、参加してもらうには、何が必要でしょうか? 繋がりを広げ、仲間を広げるには、どうしたらいいのでしょうか?

G : チラシ、ネットなどを使った効果的な情報発信は?

コミュニティ活動では、情報発信も大きな課題です。チラシ、ロコミ、ウェブサイト、SNSなど、ツールは広がってきていますが、それだけ情報も増える中で、自分の伝えたい情報を、適切な人に“伝わる”のはより難しくなっています。自分たちの活動を伝え、共感を得るには、どのような情報発信が必要でしょうか? 発信者の立場、受信者の立場から、様々なツールの使い方のコツも含め、知恵を持ち寄りましょう。

H : 会費、スポンサーなど安定した資金を確保するには?

コミュニティ活動を持続させるには、資金が不可欠です。資金源には、会費や寄付、スポンサー、クラウドファンディング、助成金など様々なものがありますが、自分たちの活動にあった資金を広げるには、どのような工夫が必要になるのでしょうか? 資金獲得のために会員制度や寄付募集などで工夫していること、資金源の効果的な使い方など、経験と知恵を持ち寄りましょう。

I : 団体・会社を超えて交流を広げる企画は?

千代田区には数多くの団体・会社がありますが、お互いに知り合う機会はあまりありません。同じビルに入っている、お互いをよく知らない状況がほとんどです。飲み会、スポーツ大会、対話の場など、楽しく参加でき、“ご近所”団体・会社が知り合い、交流を広げるには、どのような機会があればいいのでしょうか? 実行できそうなものは何でしょうか?

第2部 対話の基本的な進め方

- 今回の対話は、日頃の活動も分野、テーマも異なる方が集まり、地域や活動運営の課題や経験、知恵を共有し、相互理解を深めることを最大の目的とし、そこから連携・居力できるアイデアが生まれたらと考えています。まとめたり、正否を問うよりも、それぞれの意見を大切に、聴きあいましょう。
- 前半 25分、後半 25分 の2セットで行い、前半・後半でメンバー交替を行います。
ただし、前半から後半に話をつなげるため、各テーブル、お一人は残ってください。
(残る方は進行役以外の方でも大丈夫です)
- 前半・後半、それぞれで下記の進め方を基本とします。(各テーブルでの工夫も歓迎です)
 - 1) 自己紹介(お名前、千代田区との関り、活動・関心テーマの紹介) <約5分>
 - 2) 対話への導入 <約2分>
 - 前半:(進行役から)対話テーマの確認
 - 後半:(残った方から)前半で話しあった内容の共有
 - 3) テーブル参加者の問題意識と経験の共有 <約10分>
 - ・テーマについての問題意識、関心あること
 - ・テーマについて日常の活動や生活で経験したこと
 - 4) テーマを深める話し合い
 - ・何が重要な問題か、なぜ既存の取り組みでうまくいっていないのか?
 - ・どのような解決策、アクションができるといいか?
- 出された意見を、他の方とも共有するために、ぜひテーブルの用紙にメモしていきましょう。
(用紙に書くのは、どなたでも歓迎です!)
- 第2部終了後に、対話を踏まえて「千代田区で団体間で協力・連携して取り組みたいこと(勉強会、イベント、キャンペーンなど)」について、希望者の方が、全体に提案できる時間を取ります。(そこから、第3部での協力や連携の具体化につなげていければと思います)
第2部の対話の中で、「こんなことできたらいいな」と思われた方は、ぜひご紹介ください。